

# 新橋珊瑚



新橋珊瑚 ― 都市の記憶と多様性を貫通する成長する珊瑚礁。

現代の複雑なモビリティネットワークが交錯する都市の節点である。

ここに私たちは、建築単体ではなく都市全体に、

繁殖し続ける構造を持つ「シネ」を構想する。

## 01. 新橋：交通の要からサラリーマンの聖地



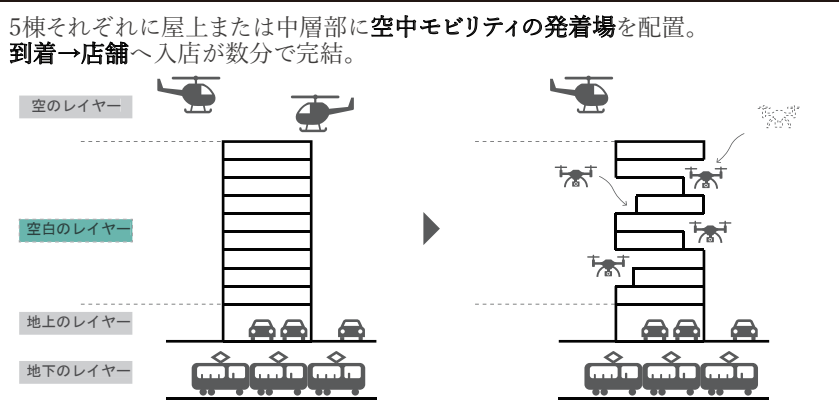
明治から大正にかけて、日本初の鉄道の始発駅として多様な人々や文化を引き寄せる場所へと変貌した。現在、駅周辺は「サラリーマンの聖地」として、オフィビルが立ち並び、ランチや一杯の憩いを求める限られた利用者像で形作られる画一的な街となっている。

## 02. 空のモビリティのコンパクト化の未来 (5m×5m 想定)

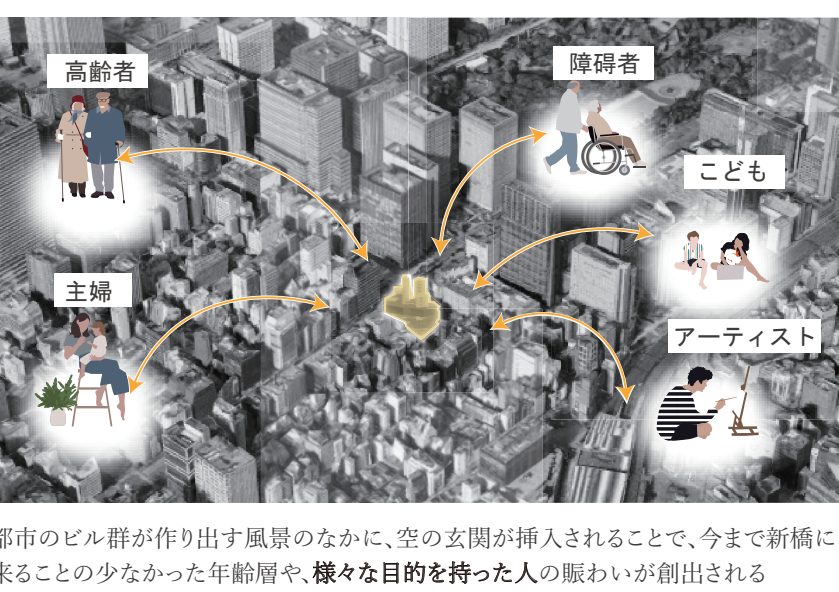


開発が進むeVTOL(4.8 m幅モデル)などをベースに、将来的には5 m×5 m程度の超小型モビリティが都市環境に導入できると想定している。このサイズ感により、建築内の垂直階層配置が容易となり、空と地上をシームレスに繋ぐ「空のモビリティハブ」が機能する。

## 03. 建築が地上と空を繋ぐ：スカイポート（空の駅）



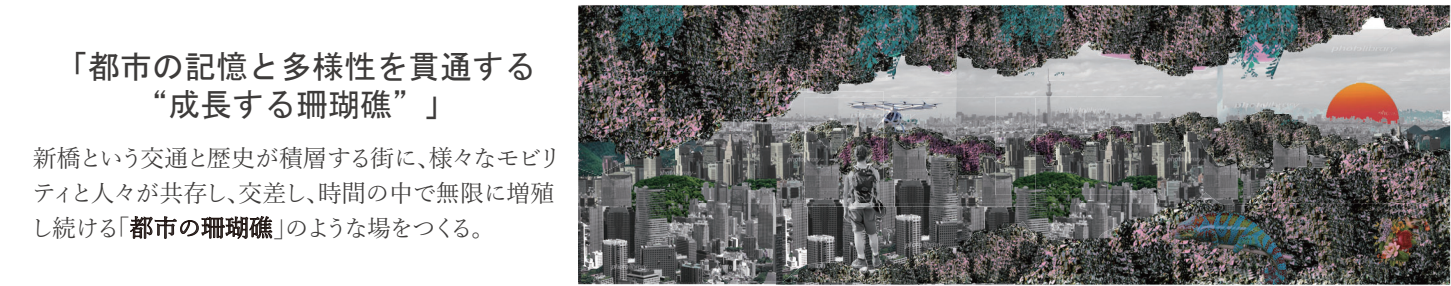
## 04. 新しい都市の拠点 都市の生態系の再構築



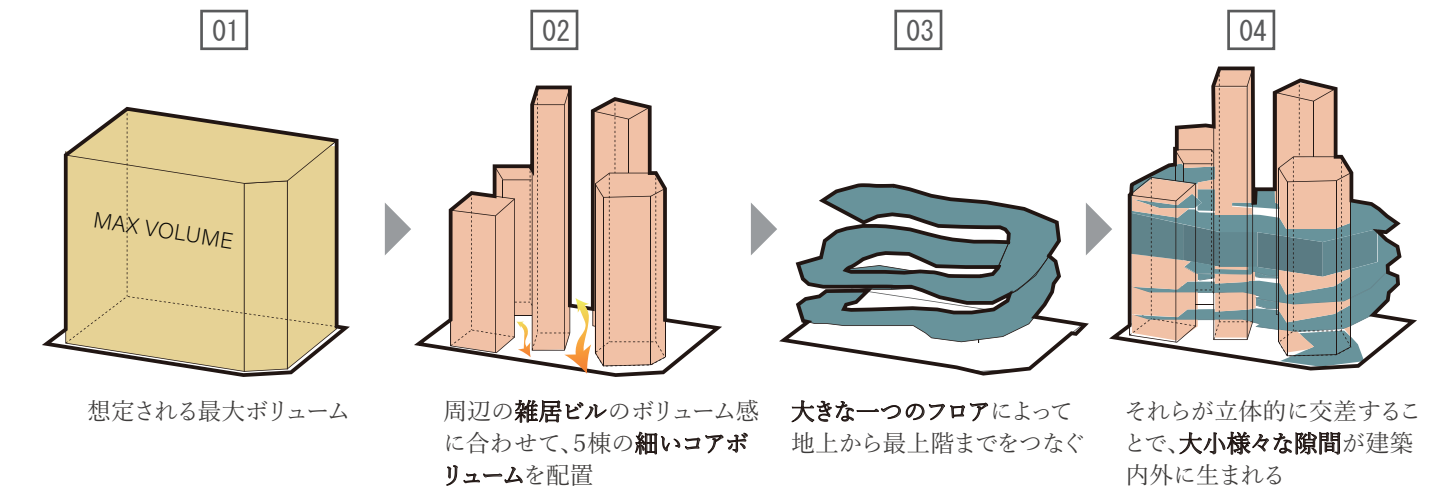
## 11. 新橋駅 - 珊瑚 展開断面図：陸から空へ、空から陸へ



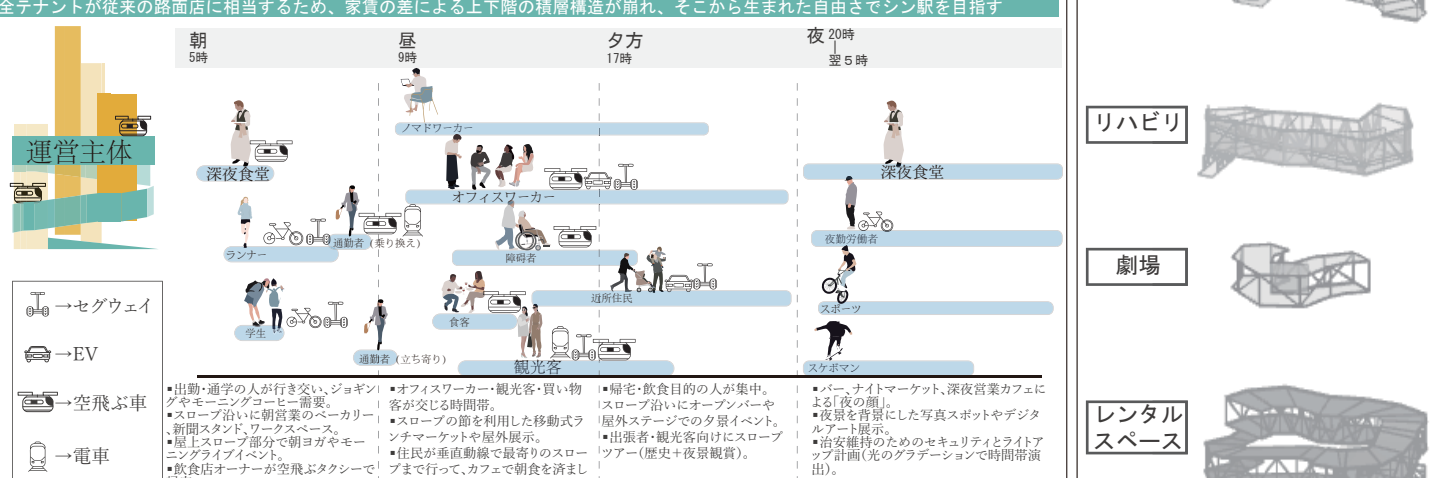
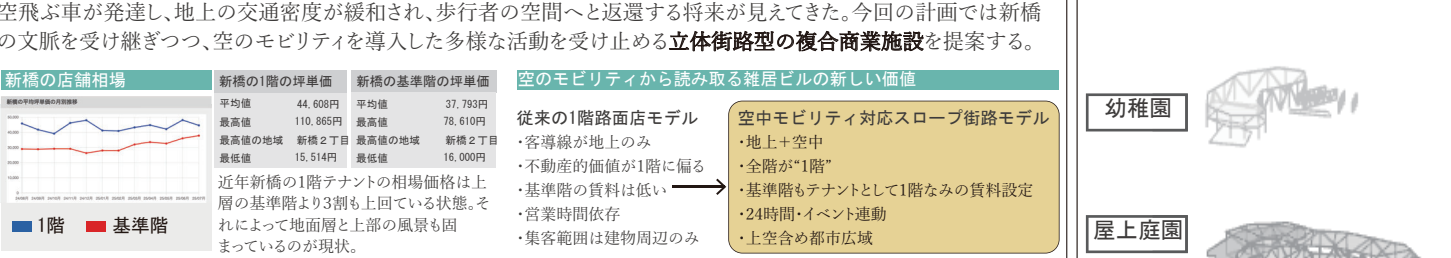
## 05. CONCEPT：“珊瑚”から見るモビリティと人の共存の在り方



## 06. スロープで立体街路をつくる



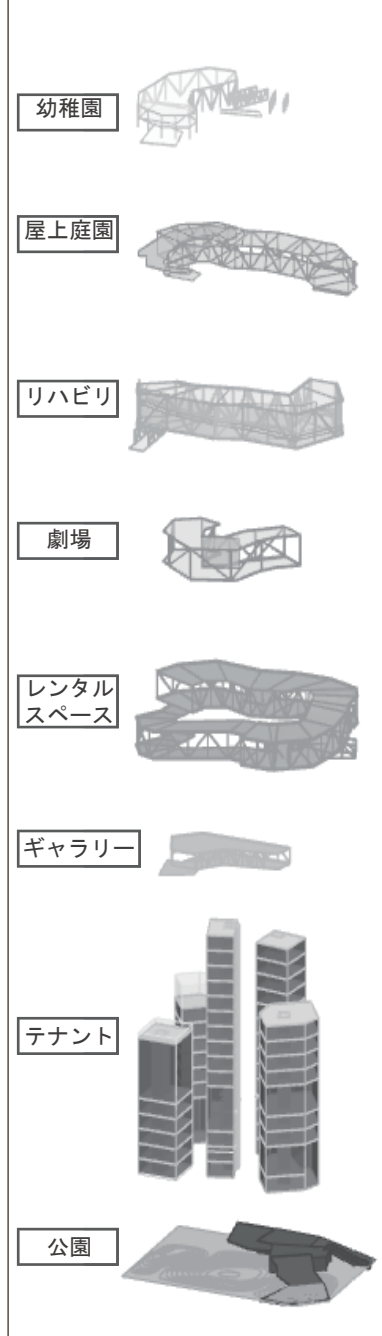
## 07. 事業計画：空のモビリティから基準階の価値を再定義する



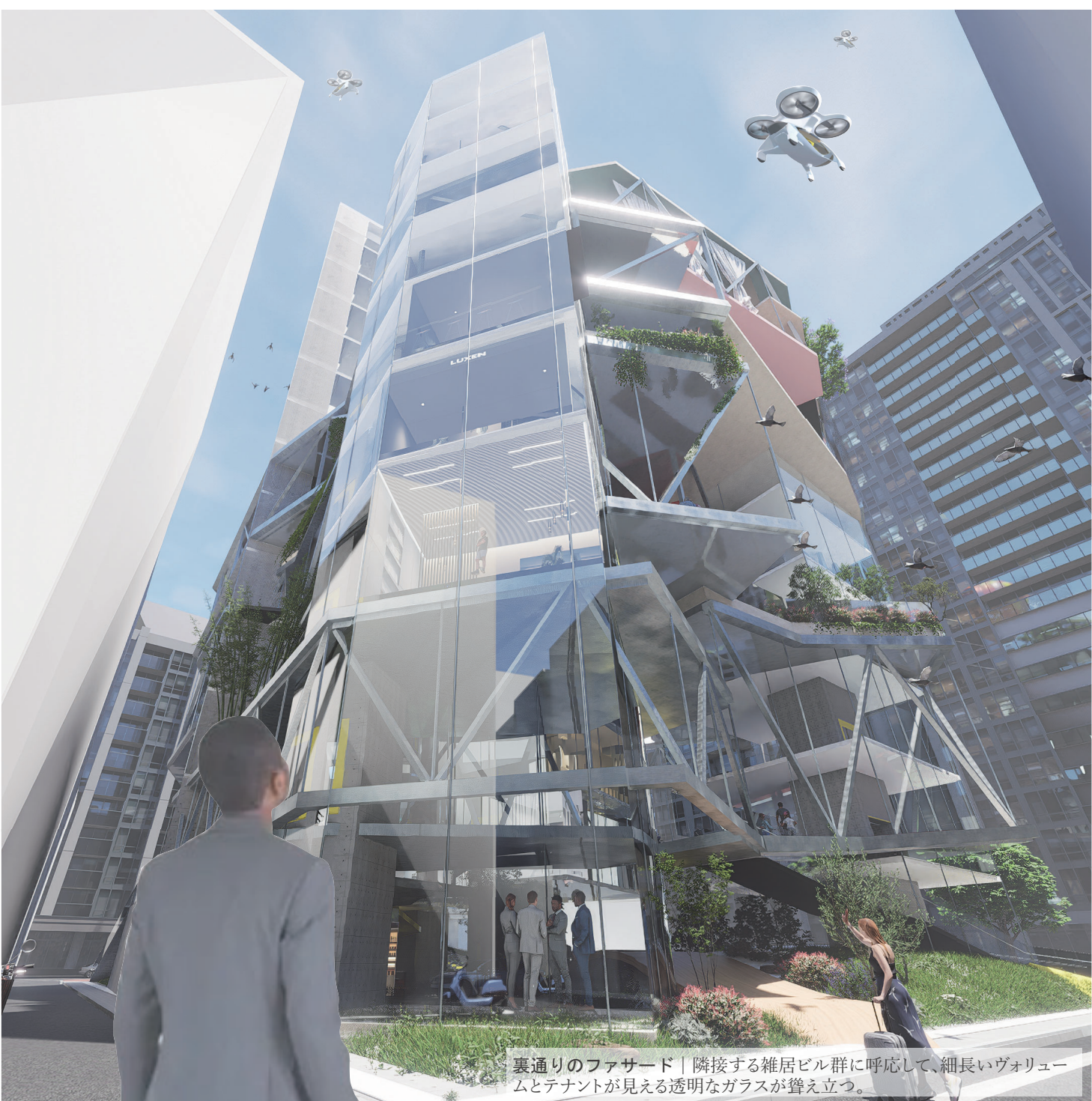
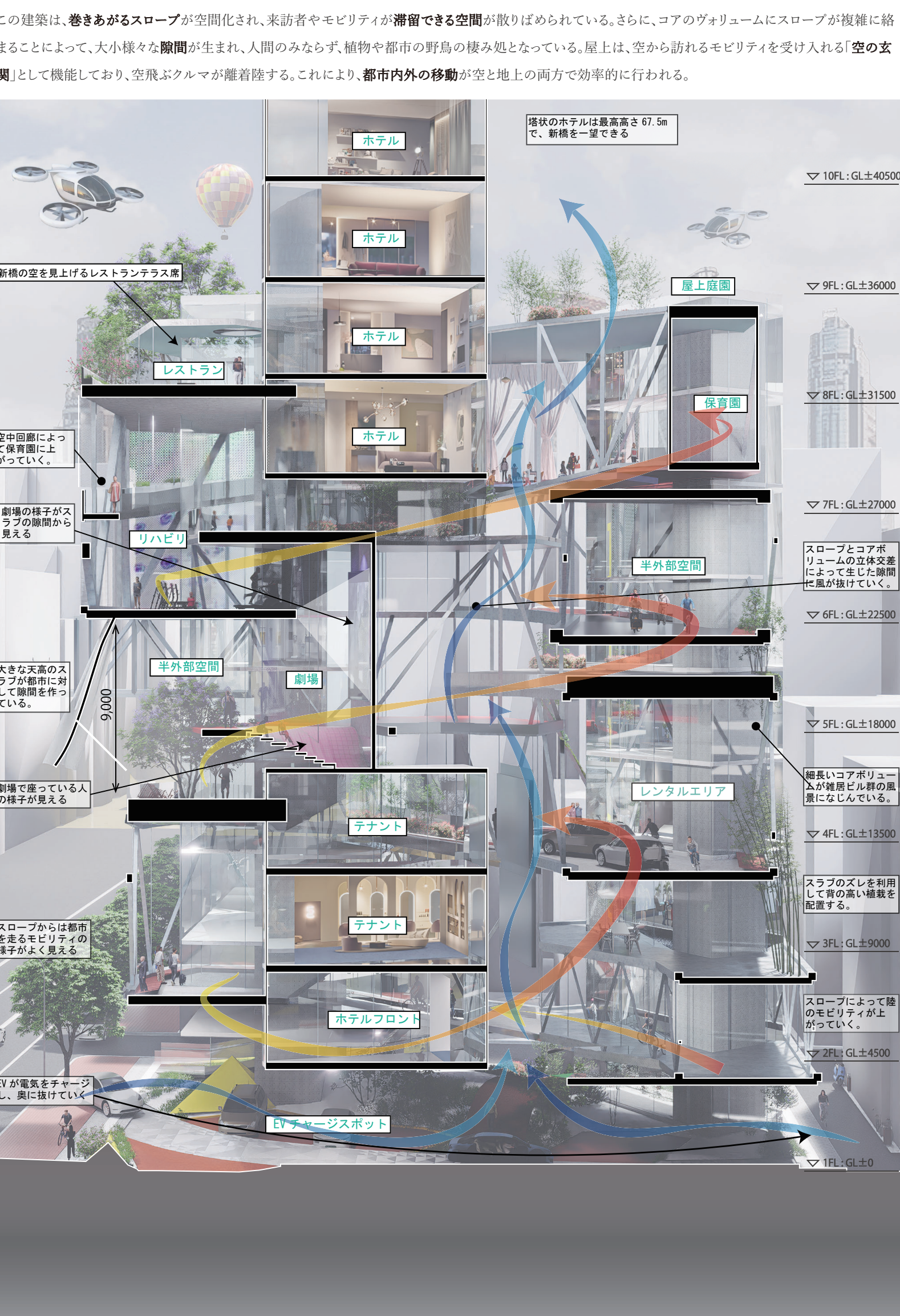
## 08. 雨水リサイクルとミスト冷却によるパッシブ・クーリング



## 09. 全体構成



## 10. Section Perspective: 立体的に絡まるスロープと多様な隙間



表通りのファサード | 隣接する雑居ビル群に呼応して、細長いヴォリュームとテナントが見える透明なガラスが贅え立つ。



リハビリ施設 | 身体を動かし、老若男女問わず交流する場。保育園に繋がる空中回廊や、下階の劇場の様子が見える。



表通りの公園 | 地上にEVチャージスポットを配置し、車と人々の公園として開放する。



保育園 | スロープで子どもたちが駆け回り、その様子が上階のレストラン階から見ることができる。



劇場 | 劇場の様子が緩やかに登っていくスロープに溢れだしている。人々、自転車、車いすなどのモビリティが滞留する。



屋上レストラン | 空のモビリティが離着陸し、直接レストランにアクセスする。空から陸、陸から空へこの場所を経由して新橋からまたどこへも旅立つ。